

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄首里方言におけるヴォイスと利益性の記述文法研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 當山, 奈那, Toyama, Nana メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/30817">http://hdl.handle.net/20.500.12000/30817</a>

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

沖縄首里方言におけるヴォイスと利益性の記述文法研究

琉球大学大学院  
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号 128095D

氏 名 當山 奈那

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

本論文は、北琉球語に属する沖縄島首里方言(以下、首里方言)における、主にフィールドワーク調査に基づいた記述文法である。1章はじめに、2章形態論の概観、3章自他動詞と他動性、4章使役構文－基本的な使役構文と派生的な使役構文、5章受動構文－受動文の意味構造と利益性－、6章授受動詞と授受構文、終章の7章から構成される。

1章は導入である。首里方言の話されている地域の地理的位置や産業、歴史についてみていく。社会言語学な手法や用語を援用しながら、これまで「首里方言」とのみ括られてきた方言には、「首里地域方言」、「首里階層方言」、「首里那覇社会方言」の3つが存在することを示した。

2章は、形態論について概観した。琉球大学琉球語音声DBから用例を抽出し、単語の①文中で実現する意味、②どのような形態論的な体系を有するか、③文中での機能について分析し、各品詞の形態論的な特徴について述べた。

3章では首里方言の他動性の特徴について、自他対応の特徴や他動詞構文と使役構文の連続性から述べた。

4章から6章はヴォイスに関する諸構文と、それぞれにまつわる利益性について扱った。

4章は、使役動詞が複数存在し形式的に発達した首里方言の各使役形式を述語に据えた構文について述べ、それらが特定の条件下で受益表現にずれていく有様を示した。

5章は、受動動詞の形式を述語にすえた文は意味構造上利益性に関して中立であることを明らかにし、それがシテモラウ相当形式の欠如によることと、利益性がなかったことが第三者主語受動文を発達させなかった要因であることを示した。

6章は、授受動詞について、動詞の語彙体系のなかで捉え意味記述を行った。また、補助動詞としての授受動詞を分析し、授受のカテゴリーとして未発達であることを明らかにした。

終章では、1章から6章の議論について他動性、使役性、利益性の観点からまとめた。